

ポイント

◆◆特集◆◆

★「福岡市 グローバル創業・雇用創出特区」における
国家戦略道路占用事業の取組について★
(福岡市 経済観光文化局 観光コンベンション部 MICE 推進課)

福岡市では、昨年9月9日に内閣総理大臣より国家戦略道路特別区域計画の認定がなされ、11月には国家戦略道路占用事業（エリアマネジメントに係る道路法の特例）を活用した第1弾のイベントが実施されました。その取り組み内容について紹介します。

◆◆TOPICS◆◆

★2014年度雪氷期に向けた取組み★
一大雪予測時の事前情報提供による出控えや冬用タイヤ装着のお願いー
(NEXCO 中日本)

中日本高速道路株式会社では、2014年2月の大雪において、東名高速道路や中央自動車道の通行止めが長時間化したことから、この冬から早いタイミングでの雪に関する情報提供に努めることとしました。また、合わせて、雪による通行止め回避および通行止め時の早期解除を図る取組みの強化、高速道路と一般道路が一体となった通行確保に向けた関係機関との更なる連携強化など7つの取組みを実施することとしましたので、その概要についてご紹介します。

.....
★平成27年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します★
(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、毎年8月を「ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成27年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★道路管理事務に携わる職員のスキルアップ等にむけた取組みについて★ ～「道路管理事務実務研究会（ARMS）」の運営と成果について～ （国土交通省 九州地方整備局 道路部 路政課）

九州地方整備局では、道路管理に求められるニーズの多様化をふまえ、事務の一層の合理化、円滑化、簡素化等を積極的に推進するとともに、道路管理事務に従事する職員の執務水準の向上や魅力ある事務の創出等を通じて職場の活性化に寄与することを目的とし、「道路管理事務実務研究会（略称：ARMS（アームス）」の取組みを平成 6 年から続けています。本稿では、設置・活動から 20 年を経過した ARMS についての活動内容・実績等をご紹介します。

.....

★めざせ新潟県土の強靱化★ —新潟県道路施設維持管理計画— （新潟県 土木部 道路管理課）

施設の高齢化に伴う維持管理費の増大にどう対応するか？
道路ネットワークの安全性・信頼性を確保し続けるにはどうするか？
道路施設の特性や設置環境を考慮して経済性の観点も取り入れながら、メリハリを付けた維持管理を行うことを目指している新潟県の取組み、「新潟県道路施設維持管理計画」について紹介します。

.....

★上越市の雪対策におけるシステムの活用について★ （上越市 都市整備部 道路課 雪対策室）

新潟県内有数の豪雪地帯である上越市では、道路除雪に特化したクラウド型の GIS である除雪管理システムと現場状況共有化システムを平成 24 年度より運用開始しています。
除雪管理システムは、約 400 台の除雪車にGPSを登載し、稼働状況を本部端末でリアルタイムに確認できることから、冬期間、市民からの問い合わせや除雪業者への指示に活用しています。また、稼働履歴からの除排雪委託料の自動計算機能も備わっています。
現場状況共有化システム（OPECA・・・オペカ）は除雪管理システムと連携して現地の状況をリアルタイムに本部端末に送信できるシステムです。
市では、冬期間に除雪対策本部を立ち上げ、これらシステムを活用しておりますので、導入の経緯や運用後の効果について紹介させていただきます。

◆◆編集後記◆◆

子供の頃、お正月の遊びといえば凧あげでした。帰省先の祖父の家には広い庭があり、その庭を何度も走り回って、やっとの思いで凧をあげていました。空高くあがった凧を見ると、なぜかワクワクしたものです。

凧あげは、平安時代に中国から日本へと伝わり、貴族の間で遊び道具として用いられていました。江戸時代になると、庶民の間で男子誕生の祝いとして凧あげをするようになり、広く親しまれるようになりました。

新年（お正月）に凧あげをするようになったのは、健康を祈願するためと言われていました。昔から「立春の季に空に向くは養生のひとつ」（立春のころに空を見上げると健康になる）とされていたことから、立春（旧暦の新年）の頃に、縁起を担いで凧あげをするようになりました。のちに新暦となっても、凧あげの風習は続けられ、子供たちの冬休みと重なったこともあってお正月の遊びとして定着していったようです。ちなみに、凧あげを“たこあげ”と読んでいる方は、東京あるいは近県の方かと思われます。凧は、関東では「たこ」、関西では「いか」、さらには「たか」と読むところもあり、各地域によって呼び方が異なるようです。

1970年代頃、年末年始になると、「凧が電線に引っかかった場合は、必ず電力会社に連絡しましょう！」というテレビCMが頻繁に流され、凧あげを楽しむ人へ向けた注意が促されていました。それほどお正月の遊びとして親しまれていたと思います。凧をあげるためには、広くて電線のない場所が最適ですが、このような場所の減少やゲーム機の普及などによって、この頃をピークに下火となっていきました。お正月に凧あげをしている子供の姿は、都心部では見かけることが少なくなり、寂しく感じていたところです。最近、景観の向上や歩行空間の確保、防災強化の観点から電柱・電線をなくす「無電柱化」を推進する街づくりが進められています。無電柱化の推進は、凧あげにとっても、電線に接触する心配がなくなり最適な環境となります。室内で遊ぶ印象が強くなった子供たちですが、冬の寒さをものともせず、元気に走り回って、凧あげを楽しむ光景が復活することを期待しています。ちなみに、私が凧あげをしていた頃に、NASAの技術者が設計したという、プラスチック枠とビニール製で三角翼の洋凧が登場し、竹枠と和紙で作られた和凧にはない安定性や速度、上空から見下ろす大きな目玉模様が評判となり子供たちの間で大流行！もらったばかりのお年玉を握りしめて、玩具店に買いに走った記憶が懐かしく思い出されます。

子供の頃の記憶から、凧あげは、風と広い場所さえあれば簡単に遊ぶことができると思っていました。あがった凧がたなびき続けるためには、絶妙なバランスを保つ高い技術が必要になります。シンプルなようで奥深いため、競技（スポーツカイト）として取り組む人が増えているようです。スポーツカイトは、時速100キロ以上という高速で、凧を操作する技術や音に合わせた表現力を競います。趣味としている友人によると、将来、オリンピックの競技種目となることを目指しているとか……。お正月の遊びであった凧あげで、オリンピック出場！夢のような話ですが、現実となる日がくるかもしれません。(K)